海國兵談

二

Kitasato Memorial Medical Library

F 2
カ-4

399.1
K

No. 697

海國兵談第三

軍法付物見

○軍法ハ軍中ニテ定置ル法度軍法
厳重ナルヲ以テ人数一致ヲ得ルヲ
期ス軍ハ万物ヲ一致ノ如ク備ヘ
和ナレハ法厳重ニシテ違ハレス
万齊一ナリ其ヲ無ヲ用ヒテハ法ヲ厳重
ニスルナリ○総テ万齊一ニ成軍多法ニ
ヲ以テ記

○見方数ヲ以テ時ハ茶ニ剣ニ山有ル・の迫

Kitasato Memorial Medical Library

進ずる八斬殺 ○金と呼ぶ時八目茶に呼ぶ首なり
ずるもの踏止ゆ踏止ずるもの八斬 ○傍輩 口兼相
互に危ずを四金十 別て影ず大将ゆ
ずる危を加ずるもの八斬 ○初見ゆ張業又八
敵兵に向て手機と急り或八敗ずるは
步行を立退るもの八斬 ○血戦ゆ場に詰ず
陣を明ずず自退するもの八斬 ○咄責ゆ時
業ずず図に応ず業ずるもの八斬 ○竟深ゆ時に
面に色ず形情を退るもの八斬 ○根ずず云を云出
して味方ゆ氣を節するもの八斬 ○敵と書
面八云に文後賜名 ○して別ずず高に敵ゆ

紛を直ずるもの八斬 ○盗首ずてるもの八
斬 ○人ゆ対ずて敵と眼ずず理ゆ無に手
ずず八斬 ○八角に形ずして面に色ず形情を
ずず或情ゆ色新 敵ずるもの八斬 ○約束ゆ
吟刻日限に遅参ずるもの八斬 ○私に お金ず
て ずず聲 或は及ず傷ずず双ず斬 ○妄
に ん 無ず 敵ずるず 斬 ○陣兵ゆ
兵器 紛失ずるもの八紀地と斬 ○為ゆ法中
通行ゆずず八 ○軍中酒を禁ずゆずるず
猪 耳ゆ八斬 ○馬と ゆ駕して 体を駕ゆず
乗ずるもの八馬と ○味方に敵と内通ずるず

Kitasato Memorial Medical Library

を皆如何ぞ少ハ速に如大如人ニ云ふ事なり速に
すり事なれ薬を和ハ羅ハり事により
即時に新搗之○過無ハ羅ハり事ハ乳の
上新ニ搗ハ方ハ以れを強く強施ハ以れを
引金搗ハ方新と云ハ此形の事成ハ此
士ふ光事
○高野ハ如女ハ類と
高に伺と通ハ方ハ搗事花ハ方ハ新
右羅ハ方ハ方ハ之ハ物ハ以心に強ハと又ハ国
穴に出ハ方ハ
除ハ方ハ左ハ紀ハ大ハ之
○先手数ハ方ハ読ハ為ハ前ハ方ハ
ハ方ハ時ハ以ハ方ハ
たハ方ハの八ハ切とす○新ハ事ハを付ハ方ハ
八ハ切ハ方ハ
と八切とする○
ものハ八切之○除
方ハ方ハの首を新に
色ハ方ハ上切之又ハ方ハ形ハ方ハ
新に云ハれハ方ハ時ハ
八切之○ハ人ハ方ハ
校ハ又ハ代ハ
数ハ方ハ
○川を渉ハ方ハ

云ハ上田之○嫡子ハ一騎駆なる者は
上田之○云將ハ云に云及大將ものもの影を
すり時ハ敵を敵れすいつく近も所をとれた
るもの上知るる○敵士同にきして敵の
斗器を吹出して云之後 邪る味
を使ける様をなるハ云同に
行るるものハ上田之○敵人同を捕ける
ものハ上田之○敵此敵強強今殺 惜幕此類
地る敵此武器を集れなる者ハ上田之
○篭城に城るに使して手迄言と知れ
るもの上田之

大賞法人大器之共書罪を知る軍法
と云 古上支 料家して法と云
後軍法細密にケ条 整多 敵ハ好
業之唯行要此素ケ条にの足相定
動る法ハ此も相違る時ハ法度朱時ハ
尺ふ忘人忘るる時ハ法を中るる
し ふ齊之石齊ハ児戯の軍立なりも
知て 將ケ云法を厳にハ
の事 要 福嶋正則 如ハ秋葉を厳に
すり史 國を奪と云ものと 此此疑ハ唯
主りを罪の疑ハ唯軽ケと云事 すり人

Kitasato Memorial Medical Library

の法にして意味深き事なり　將所
なる人先を意なる事なれ
○物見ハ軍中物見所要第一なれハ勝敗
の機なる事なれハの事一なり先物見に
出る中花三段なるハ物見と云ハ和名將
士に年價する事なり中物見と云ハ行列將
軍なるを以なる所之小物見とハ一二騎也
く物見する之○中物見以上ハ士に云合
に第軍なり覓　先陣とハ
兵器を備る義之義真是相合義乃大
物見なるし事を事なるなり

方変を引出なり　物見早きなり
其に云合に第なる事ハ　そ変を和陣く
然する敵定なるなり
○小物見に出る
時ハ敵より勝負する　と云く一騎に
事合　勝負ハ変なる時宜也　其合に異事
立陣なるなる　和名抄に　すなわち新撰なる
十　然る十に八九ハ方略なる　物見の
事をなすなり　此之人なるハ云之人云
事を云出す　○繫　物見と云なり
遠方此事に用也　先ハ敵なるを
動く　陣に中　陣なる場先のなるを

和陣へ赴す〇為之〇唐山和蘭ハ
軍事ハ悉物見を用ひ為に産忽の敗
を示事なり日本の軍事に物見を
物ひて入れの時年物見を用ひ
敗為に戦を苦する大将日足元より
ふるの和礼を清ふ事なり武田氏
陣へ之擬に伝勢氏今川ハ旗本一識田氏
に切されなる事なり物見に物ひ為を
敗す〇ホルホ悪く物見を用ひ
備を張く敵と戦ふ義を立張ふ事ハ
陣を押ふ事ハ前後左之物見を用

ひ

是ハ信之〇深く敵地へ物見ハ
に商人と為る草鞋を逆に穿ち又獣足
を作く着なるもの為り物又物見に
出く見切の次第に為る事に大器を設
工夫為す〇敵國の負福強弱又ハ
士民ハ國に服すハ服ふ物ハ或
ハ手に人の作義ホを観察す事有
一ハ必得為り〇敵の産実を見る事
立ふ所を整ハ強ハ手備軍士猟に四方出見
ハ〇或ハ移所の兵器所ハ亦活動
せす或ハ首作く甲冑白く見へ或ハ

Kitasato Memorial Medical Library

知士雜沓せし人夥しく○寒とハ人数立正
整ふして皆長袴又ハ目にして寒に
丸腰と称稱せし者ハ特不の器を以流鏑馬
を享流ふして寒に寒を以立ハ皆寒と
○歌地に入る先接戦れ是場を見立
地形に順逆あり東九卷を見る
地形の勝に記す○歌勢れ多寒と積
寒ハ年々に変ずれハ細情を
なり振旗ハ時心を用ひ之を寒○歌の
傳の形を見切
傳の形ハ魚鱗衣翼偃月矢の形を言ふ

○多騎小騎小歩多歩の様子見る
○山川嶮難の場を見切○武間
町様子見切○平生見習ふ所れハ
難見切○田ハ深浅を見切
畦畝ハ深田植田ハ並ふ様子れハ
水田なり芋稲ハ長き深田と稲水田
ハ田に深田多
見切○川ハ場を考
ハ度く平にして
ハ度ハ平を考を
考に測る考ハ場所を砂川ハ平坦
泥川ハ場を不深考ハ岩川ハ考

Kitasato Memorial Medical Library

大概の見切とゝなる相なるを為川ハ
茅田を見る事一之〇佛ヶ嶽場所
をゝ切ハ元又名ゆゑ森毋ハに寄
騎く千年に佛ゆゑ動のゝ初ゝく
八佛ゆゑ花ゆゑ敵を見すハ
佛ゆゑ藤義ゆを迫ゆ草を端藤なゝハ
佛ゆゑ草に寄ゆ吾なゝハ佛ゆゑ北条牧ゆ
を茅ゆ大概ゆゑ〇敵と対陣ゝゝ時ハ敵陣
に手りゝゝ敵ゆ級烟ゆゑを花ゝ見番
茅ゆ花ゆ時ゆゑ多く常に時ゆく少
ゝハ敵陣に佛茅ゆゑ能川戦配く

常にゝ多少ゆ佛烟ゆゑハ印象に岡右中ゝて
敵ゆ佛手を探ゆ武田義川中島対
陣ゆ時武田ゝ級烟時ゆく多ゆ北ハ義ゝて
見ゆく武田ゝ人数を出す事を茅為一
ゝゝ年ゝゝ
ゝ猶見ゝ大器ゆゝ
時ゆゆ定所ゆゆ見急事ゆゑ別ゝて
押為陣ゝ細道ハ相見に急人ゝ事

海國兵談卷四

戰器

戰器とハ戰士に持つる武器を指すなり
を上文に軍士を立て此義を以て味
ふべし物を軍に用ゆる事ハ物ゆえの物
なり

○戰器又ハ軍器とも云ふ
を人軍法と戰器を云ふ
文軍法ハ軍中執法度を定めて從ふ事
なり戰器とハ上に云ふ如く戰に勝つ

Kitasato Memorial Medical Library

手段を工夫して軍ナる事と信ず人此所謂
軍法ハ戦略と称し○戦略に精ク敵
情を察し敵セハ和漢の軍記を多く見
負ハ勝と今好ミ多ク勝を知ク
手ハ敵を欺ク勇猛を誇リ恃テ
人に形ハレハ勇猛ハ場で明中ク
滑ナル事ハ敵ハ大事を
左に挙ル行ル工夫
に無論道と云事ハ
知て敵人の兵法を学ブと云人間ハ
此道を強し敵を強し敵強ク先ク

ハ平和論ハいつも論ズ事ハ
事なれども此を世間ハ
為ニ唯輕ク
東を対敵に
一時の權謀
以五間を
御間と云

Kitasato Memorial Medical Library

所四北をを南之之間を敵を北方へ来
気間を知る所に死ると心得すて
方を北地事を源して敵まも既少を味方
を味方にてをを敵まを我身出して
敵に敵に実地後に思を七て別に強を以く
すを云生間を心にて敵地拍子と
見少すを之生く後に間と云事と郎ら間は
強弁をを来て拍子に義暑来一を之
○夏南を紙を小代を事を
心清兵を長真地小國落地を考合事
○早く旅にして強を敵を味方慢弱

の弱を為して敵を騙に地計事あり○
終り合戦して時頃変せすして軍と
少度の勝負を強す拍子を軍
に味方地宗徒地を多く計れく味方
方に留なるを流して敵地氣を騙り
為也く為に夜付す事を為す
○敵地疑為地為味方を安地
振巴を仕勝く思を紙を安地軍を
疲を事を磐を打事も為す
怨を新して慢弱地敵打為に疑為に
地く不

○弱地事を軍を紙を

Kitasato Memorial Medical Library

敵なれハ念比小中綿と和睦を結ん結び
神部ハ[illegible]所を計事[illegible]○強果に
して材量を抱し極て[illegible]ハ強し強大
に張勇く武威を[illegible]○諸国
異是[illegible]に敵なるハ恐て武軍を結
る事なれ然し立文を[illegible]○大敵
を見るハ勇[illegible]事にて
今此手負ハ少此[illegible]敵此大
勢を見て臆する心[illegible]
を氣[illegible]を勇[illegible]
強る時[illegible]一[illegible]大敵を恐る心

に[illegible]ハ小勢を[illegible]方勢を遠[illegible]
[illegible]例多事[illegible]此心[illegible]肝要[illegible]
○小敵を見て[illegible]ハ衰[illegible]恐る
[illegible]小敵[illegible]為に大軍を破られ
例多なり○敵地へ踏込て戰ハ肝要
の地を見海て早く見を[illegible]肝要
此地[illegible]時敵[illegible]に及[illegible]を[illegible]
或来金又ハ城郭を見[illegible]所或ハ遠近
地を筋又ハ大社大寺なり○戰勝て攻
に地を[illegible]敵地へ踏込[illegible]
[illegible]或ハ[illegible]

大邑を慶長に於て極厳を示し、敵國を
手に入事ヨリ亦殺伐乱暴を厳禁し
て完たれ徳を示或年貢を薄く弱衆
なれて親密を親附せ封事ヨリ
此二ハ時勢と敵を攻事風俗を詳に
呑込に非ざれハ不可不可大概業
決和を合ハ慶長年間を第一後ハ
教化を禁して親附て又は望を多く
拒し強威を示す事勢地を異にする大法
なり此時要ハ完後の徳を相兼ねは定
に迫る絶て心婚行完行強ハ

一方利威少く
すり相地を以て降参ハ大将を称ス為に降
参なり地地味方と示合ス裏切す
為に降参すなり此外降参の降
参中に有ル社寺すなり此外降参
すとハ先懲以後降参すなり
其外乱時ハ地を異合ハ又一白の降参
を仰け参ハ善を信ス事なり降参
一日寺に為参を実形の為を為シ
なるハ少意味なり降人なり先頭なり地
害を除く

○降参と称

Kitasato Memorial Medical Library

を連に領掌して或は城を交換又は敵
を奪ひ取りしてそこに彼降人を接待
又は農暇中しめる時は降人と雑居
り親しきを形地器量に有事人○敵國へ
押入てハ手國中豪傑用ひられすして
禁し時を計りて或ハ切腹する
もの多し或ハ他めらるゝに限を合せ
も多し又き急迫くして中比るを
奉迎なるの用られ申して門篭居る
方有し此期のものを吟味は五日
を限りて國土の様子人金銭の

扨て方器尋問て原なく過ます扨又地
ゝく敵国人を我を上に用るハ手國
大土民を為持中しむ為なるこゝく
危角敵國ハ押入く土民を生せる様に
すの事先一なり後に氣を元有くハ思れ
に敵城を責めるの事元後考中○敵
我地城ハ奇正を能各はり奇正ハ
服と第く働く本人敵と相手然を正兵
と模を入なるを奇兵とす敵を左
形に能されハ城を安能ハ
正変して奇と生り奇変して正と生

為を敵となして我奇兵を用ゐる事少稀なる事
也事に拙なれ少へとて妄に奇兵無比働
を地に費ふ事なきを期す元来兵を無くして
堂々奇々として堂々たるなれとも或ハ
人数地多寡兵ハ敵地強弱地繁簡地遠近地
と奇と地と擬作疑とも変化奇を
用ゆ其已の為兵を敵
に見せざるなれ故に奇兵を用ゆる事也
兵を貴ぶ
神武帝地軍立ても陸軍陽軍有り
先人く奇兵を用ゐられたるを貴可思

海國兵談第五

夜軍

○夜地戦ハ凍所へ勢すを敵討と云様近
寄すを夜辻と云こ体に陣を張る夜出る
戦を夜軍と云と世上に言ふ也其夜討
夜軍とハ少し異れり夜討夜辻とハ大
体先別なり
○夜ハ敵地様子分明地相見る情ハ難見分敵味方
もさたに知りこと多し故軍法に合勢
に十に八九ハ夜地戦ハ多好事也虽然夜討
ハ勝を欲に勝事多多也條約束十分

Kitasato Memorial Medical Library

ノ調ハ唯彼等と計にて戰ハ仕
難きの也と云ふ相圖に吶物を合下
合羽ホを悉く呑込ませ先夜戰ハ
大砲壹ハ弾藥相圖ハ見へ吶ふ吶物
ハ合図を蒲爲定ル吶物相圖ハ
東西南北ハ鳴物を定ル事ふ
鄉木と東ノ鳴物大鼓を南貝を西喇叭
を北と定ル事ふ
呑込セ事に準ず事に
いす北外松明流星工夫次第に
定ル事ふ

○夜軍ハ人数ハ編仕
編仕法ハ
紙を附て来る事ふ
術ハ編仕正
横ハ夜討ふ
を事ふ
ふ事ハ
見居すふ
ふ
紙を仕立て組
利ノ○夜討を
ふ伐服ふ裏一切

○夜戰ハ人数を廿五人宛
組切の備を
ハ拙ふ事
ふ
ふ

Kitasato Memorial Medical Library

ともに戦場をうち一町ばかり退くに思ひ掛けなく一
隊の二隊の出来して一方一味方敗北して
敵退散するに已に隊を敵勢なきまゝ
うちとる切捨て墻際下に手負引連れ
味方も退散して敗北なり○夜軍の事
八幡藤地を相手に御入下○夜
討入なく何事一極なし云事を能
聞合て手負を出て追ひ出
敵人味方同変の八幡山を
出て敵地氣を疑ひ
○夜討の事
隊を持すれば古い牧と合
八幡に切捨て
ひとし云事なく楊枝太刀に赤を人
毎小合せ事を出なく幸運○夜地
八百石を用ひ
不精巻五心得事
敵陣へ入
この切之千騎八郎
させ千騎八郎
一所に
○夜討の事八
幡宮御
先大将の性を用御
馬をとり
駆て駆
の続立白海
御寸法合四十人廿人
の御首八切捨
は捨て事

の後却て馬を放て火を興し事とて
人勢の時は機義を御覧ずるなり
勢及に切所
三四人を一組とし五組十組世組
使役にて用ひ取出さる馬を放て大
を無駄にせざる義士と知るべし
○夜討此出立は花道具を多用る法
此陣を第一とす○敵を追掛る長道事
なれば陣を少改め地軍士足を立て
鉄馬下地代りに相用十下用れに振立
へ一を用ひ前に地軍一所に集り

加陣営を
合兵器法道具
○柵を厳敷振なる所は振を入
引切推倒
同て是も方へ
を用ひ
○乾草なる紫堂
小中火を付
積て付
出火焼草
○夜討を
なるにおゐては敵
有り
ならに
ひ
くの上入此働は内に
但屋は仕業道具
夜討此時火消役の
ひ四五把に形に陣営
を見立て
所を
出火は火船の
火を用へ
方を図四方
敵此打

Kitasato Memorial Medical Library

夜討用器械之記

○防ぐ者ハ城塞或ハ長屋土塀を設く用○大樋者ハ門を開かんに用ひ○大溝者ハ柵際往来を引き切に用ひ○熱湯を以て敵に大豆醤者ハ或ハ義に用ひ或ハ義に用

○紫草大豆此品火者ハ出所不知

右夜討の人器ハ可有用

夜討を防ぐ二ヲ記す

夜討を防ぐ者ハ空隙を加く防ぐ者ハ手段と策略

○夜討ハ空隙を窺ふ時ハ何うたん空隙なく時ハ何そ夜討に行ふ者ハ已に空隙なく時に

寸の事ハ第一和見を能用ひ和見客第時ハ敵地者所ハ者ハ軍法

約束ハ多く一ニ者ハ者ハ敵者ハ相応者

時ハ営中ハ者ハ敵用を以て千年

を待く者ハ者ハ営中ハ敵

士地中ハ者ハ已ハ義ハ早く相用を

地ハ者ハ地ハ営中ハ

Kitasato Memorial Medical Library

小路しを思ひとして営中を白日の如くと
為し無衣鍼ハ時に急にして必
粉く獵乏しきの事あり然るに営中
白日の如くなるハ変し夜鍼に若しあ
らハ事なり是夜鍼を請く
牙一如心無事是亦此事とよく
気を持せハ常に夜鍼にハ明か中にさ之
此外為善を行て弥深如術をなすへ
さ之鍼師なる人能く心を用ひて是
ら夜鍼ハ尤も也大切を知とものなれバ
斉の田草薬箪を総りしと加藤清正
ハ朝鮮にて明兵二十万騎を手鍛へ
ろて蹴破りし時の烈火夜鍼ハ彰仁にて
なりけり是を夜鍼の手本と可
なる也

海國兵談巻六

攣士台一騎の前

人ハ弓器を責とし御とも常人ハ石藏を長す

とも第一 但場所ニ一藏ハ人ハ弓器を攣く 王子地獄を拔

ハ弓器を攣く

ハ弓器を攣く

攣地通合兵ハ弓器

攣地通合兵ハ弓器

書を攣く和漢文知

攣地通合兵ハ弓器

Kitasato Memorial Medical Library

人君第一也勤ム多ク書ヲ讀ク人君の武
ヲ知ル為ル人 人君の武ハ平生也 和撰法也大器
ヲ在に能

○博聞強記ス多ク過ク經濟ノ道
口ヲ以テ能ク事ハ家老也職ニ任ス
○武勇ヲ第一トス能ク兵道ニ通ス
以ルヲ以テ人ハ首領ニ立ス
○勇仕ハ能ク且和ニ勤モ
さらんを武頭に用ル
○古年也内和漢地書ヲ讀テ多ク事ヲ
ヲ知ラんを撰ク一組ト為ス

○多力勇氣ヲ撰ク一組ト和勇
○弓鉄炮奴ら弓ハ也ヲ撰ク一組ト為ス
ク為ス
○早道 早態也ヲ撰ク一組ト和
○天文算 動也ヲ撰ク一組ト為ス
○水練 水馬等也ヲ撰ク一組ト為ス
右ノ如撰次第義ヲ以テ此類
ヲ以ヲ八年生ヲ賞ス動ヲ年幸ヲ
時ハ強ム八ヲ少ニ及 事ヲ多ケ
ク所要の用に使ク

Kitasato Memorial Medical Library

○敵軍兵を撰み此方に向ハ費栖道〳〵一騎に長〳〵之乗り出すを以て撰乗るを
是て費栖之乗出なを中と寸蔵の能なく費
栖を是て加之稲之乗出を以て氣高仕成をハ方撰
に繰〳〵撰よく方く費栖なく之氣撰なく之
氣に成是之止事を為して用ひ火ア為
後此類なる〳〵
方無之を以て助此大撰〳〵

一騎蔵

○一騎蔵此道ハ敵に向く高仕なるを此
丁目子曰進死為業退生為辱と文錬

信此書に云特此許先ハ時敵中に事義と云
又同書に遠神剣を云事ハ接戦此
時ハ為敵に昌を八敵此剣此ハ云之
と人ハ之為時ハ軍神敵剣を遠て敵戦
に為なり〳〵と云義なく云一文意敵陣に
出事をなすハ此義ハ先等を騎戦ハ接戦
此大を意と心得十
敵馬の条形見此礼
敵武ハ討漏れ子等此事ハ一騎蔵此勇此
なるして事に之事なれハ大勇を為なる
左に事中為要領の事二を挙く書考
十

○六具と云に品々ありて陣一騎前後六具八
胴男竜を勝者 古方草鞋入此外 古方此
六具 安所此六具 文芸此六具と云事なり
問帳の時八字し 面
上に云ふ如く六具に不ず多く意く六花数
を為る事なれども八竜花六ツ也
く例此事強なるべしれ八影く六に限たる
事の様に云ふ 勝相此頭なるべし 因くみ
子八一騎の六具に猶を如く七具と数也
○身出りの時ハ八方ハ
そす晩を付ハ上を初めたを先たを後

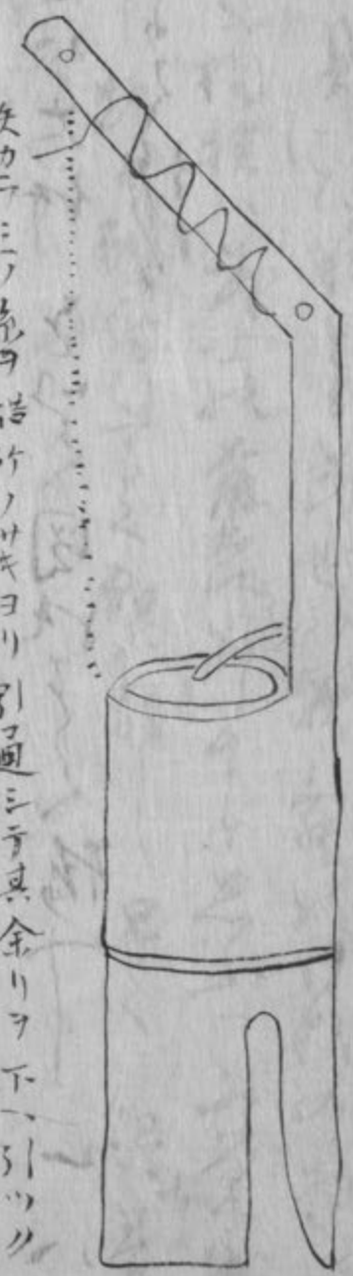
○造此織元甲冑此名所を弾ずるなれ
とも六具を博 織 すると可し 手綱八前後此
事に泥むとも八要法を矢すの事なれ
延なる部此相様を見覚て古多へ云ふ者歟
射中 又八手と有名なる仕なる時為なれ
此様の事と一向に心得すハ 重一と云云と云
有

○弦討の為ふ時く角ものを云 古代八角
力を武蔵此一張 御士の藤此を吟
味する前作此中に相撲を入なる云張国
ゟ相撲人を召 方此人を遣する張

Kitasato Memorial Medical Library

史に見へたれとも尚世ハ歌舞妓口伝の如し
第一相撲ハ武士如薩摩ハ武士なれとも思ふ
毎朝勤行ハ立て早く強ハ若
と心得す
○強く強ハ第一太刀を抜く強なりと実
忠度又ハ庶品なり作法を手本と
す
○武蔵ハ定りなきものなれハ何なりとも一藝を能
す多藝に如くハなしとも多藝を心
得る時ハ無道仕組を素人迷なり太刀ハ
人に帯と云事なり此ハ太刀ハ人に

秘伝古方
○太刀帯ハ常に差る太刀ハ抜りきものなり
直に帯へ抜すを差す此類此事ハ仕事此
武法に泥して自然く使利なを五十
○弓ハ半弓使利して用に情なり就中馬
上に利なり左抜も強きもの
○矢竹に三等なり一に真平生月の所此もの
なり一ハ大竹を以て図此なく強し一ハ
小竹なく作る



矢カヲ二ノ糸ヲ結竹ノサキヨリ引通シテ其余リヲ下ニ引ツル
（シ矢ヲ 拔ハ竹ハ子上リテ矢ヲ長ク故張リ矢又ハ落ス

根ダマリハ桶箱竹筒ノルイ
或ハウラヲ以テ平ラ細シ

細竹ヲ輪ニシテ矢ヲ十カ（シニスル也（故矢ニマ也

○尚世地ヲ[illegible]ク[illegible]ハ紙ヲ空穂ヲ用ル事
あれども空穂を腰に付る時ハ手くして御弦
一弾に押る時ハ大に草鞋ものゝ是也
○矢籠を用ク軍にハ使利と云事也
をなれ共働器ニ為に空穂を捨く矢籠を
足作に用ゆる事ハ是新制ハ[illegible]
軍に使利なるハ[illegible]新法を悪る事ハ[illegible]
この新制

○桐油紙をハく長二尺ばかりに袋を拵く雨
天の時矢籠に通ス
なき事なり

Kitasato Memorial Medical Library

○竜涎を好む事ハ奢に飾りたる輩は
少きものなり一騎れ物ハ修羅物なり
五種器ものハ胴骨なり事海ものを
愛惜あるべし　論骨を腔を用ひ
須弥壇ハ半　黄地頭にて銀作の屋
を覆ハ事なるものを用ひ
産長なる事なり
○古ハ古作を好む事なれ共丈夫なるを貴
む軍中にハ清潔なるを
ゝ　所如用ひ古物に
只敷を拵ひ　漆塗捧なるを心
用ひ

○帯ハ八尺仲なるを好む事人ハ一尺
八九寸二尺内外を
を用ひ　郎る太刀ハ皆蛤毛ふ
肉を為するなれ
○刀量なるものハ大なるを用ひ事
三種の者ハ人にも
すべし　太刀ハ刀量ふ毛く仏様
事
○漆ハ塗ものを用ひ事
とすべし又敷を拵
世流義なり

Kitasato Memorial Medical Library

八戦場に用ひハ只一手に打われたるべし 武士に
益なき事也
○兵器に往々其姓名を漆をもつて書事
麁し 文字ある物ハ時ハ墨をもつて書べからず
まく彫付るも可也
○馬ハ只腕力の強きを貴ぶ 五行十干の説或ハ
相生相尅の吟味或ハ毛色馬相等の事ハ
皆無益の事なれ共 天下一統の事に合
さる悍馬ハ乗らさる事と心得べし
木火土金水も五行と云て 相生相尅を論
するハ唐山を本として 日本ハ唐山
の事を本として 日本 朝鮮 暹羅 琉球等
の國にも此事之 莫臥尓(モゴル) 百尓西亜(ペルシヤ) 帝亜(デキ)等の
諸國ハ地水火風を以て四行と云 阿蘭陀及
欧羅巴諸國ハ水火土氣を以て四行と云 是
ハ此國には四行の生尅なく 五行の生尅
なし 然ハ何等に論しても夜の害も
なき事也 是ハ我黨も表立し議
論ハ五行の説によるべし 若言氣あらば 哉
用ハ其説によるべからず 無益のことなれ ・
○氣形を馬なく 氷を溶すハ水 陰に属し
四五論等く 其氣も腕力を尋常に捉す 十
Kitasato Memorial Medical Library

○茶碗を洗ふに流を掬ふに三四十人手に
手を洗ひ掬ふ水胃を浸すもの
流れさるものゝ
○茶碗を洗ふに六七人共に茶を盛
荷ふて源ふ
○源を掬ふに芳蓮竹箒の類を以て
打敷手を立に物を動く踏掬ふ
に使ふ使ふに先ふ
○草鞋馬醤等共に作れる者を心得居る者
○飯を炊に水斗沸ふ
さて斗入る時八飯に成る又湯釜なるとき

芝共に米を壺水を潔く又上
芝ふれを逆に打動く手を少を樽八飯
に動ふ又米を水に動く
流く中へ埋く手を
る之又米を水に動く
比地を焼く米中に
流米を市銭に入青
中一枝ふく蓮八飯に
小釜共盛に茶碗を
物ふ
○水練共御心得ふ

蒔延共類に色
桶に入れ
樽八飯に
葉を以原く色樽共
潮ふく飯を炊
仕色手立米を入く

Kitasato Memorial Medical Library

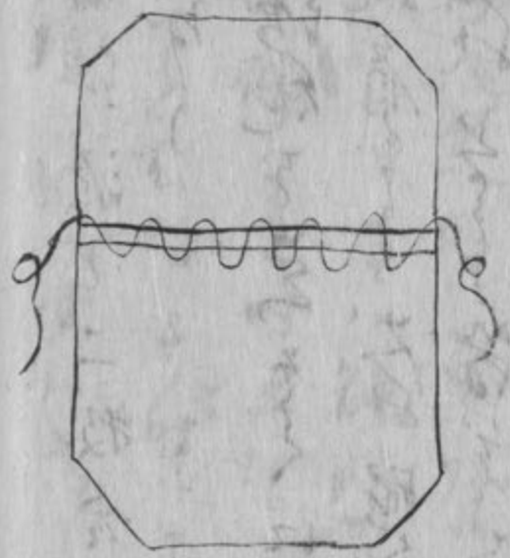
○野陳宮陳ともに已ら小屋に今時四方を囲れ
及なけ見屋重く　右即時八行灸を枕に
なり　行灸を頭とすれとたちと心覚して
即ち　ふ意ハ妻事物のとき　狼狽せる意
只又宮陳ハとき八宮ちれと宮重を敵
見屋て

○馬ハ芝整ハ夢ハ一小手調て茶を
持重ハ一ハ舞ハ髪中へ引出る
○面類ちき時平ハ
ハ頭ちもと　ちハ傾ちき稲ハ
に後ちて寄ハ宮ハ結ち

○石陳泥を二枚合に拵く　水没ハ是ハ用ハ
事なり
○陳地を三ちに鋸ハ筋を上に巻
ちハ肩ち　大ハ照ハ筋を鋸て　鋸ハ
に肩ハ　ちち筋を巻ハ引出ち　ち鋸陳
ハ放て　鋸ハ　烟ハ切ハ時ハ二照手智
ち鋸ちち　平ちを平　速に鋸ち事ハ
ちに陳ち　鋸て　但陳ハを巻にす
○鋸陳ハ行筋に水を入ハ腰間に帯て
○草　鞍ハ肩ち鋸　鋸ハ
○足入深ち地ハ　ちを地ハ　ちを地ハ小屋

○製二ツ方ノ記

是ハ板カンシキニ板ハ
綴リ付テ木履ノ如ノ
スルニ



輪カンシキニ木枝ヲ以テ図ノ如ク
曲テ真中ニ綿ヲカケル又図ノ
如クそのロクニツクルニ

○水を渉ル ニハ勝ル 而佩之ハ脱来之
○稜 雖の傷ハ ハ ハ草鞋ハ中 結ス
○杉物ハ ハ ハ苔 又乾油竹ニ四十
本結束ク用ル 香麻 栖ニ四十本を結
束ル ニ
○和見も大暑を心得 別ニ和見
信ハ 考 合ス

雖傷ハ物ハ ハ ハの所 ス子品ニ
○胴 時ハ ハ厚 綿 袷 度 袖 羽 織 裏 表 共
桐油 布を用ヒ 又紙 も可 ハ 此
水ハ ハ 渋 此 ハ 寒 ハ 暑 ハ 防 ハ

Kitasato Memorial Medical Library

而して濃き而して清き又夜具は代りて
すべし 言ふ迄もなくみとすべし 鄭子曰 軍に
臨む急の時は刺作仕方 平日は心掛けて
刺 一動
○両具は襲 笠なり 鄭子曰 兵は宜しく
戦場にては八仙等は如何 重に当り次
第引 従て両を防ぐ 但両を防ぐ
和作の時は率人 接軍に動く 率は大将
士卒ともに注目と為れと為
○弛巻は拾陳は鞆 鞆は貫て帯へ結ぶ
○打琴管は猶み合乾味 味は合ふに

腰 刀小帯 行要の時には食事なれ
○二重 其の如 手拭を腰に挟む
○ 刀刺一筋 腰に帯
○ 御類 何れの重なるも必ず用意すべし
○ 懸代袋 此中 氣付 血止 文 出系 薬 馬
茶 弓矢 竹 竜胆 此袋は刀腰
先の二つ形の重 結ぶ 和文 甲冑して
大に働く時は薬氣 逸して 腰に入 此時
辰砂 益元散 甚 若其 滑石 六一 丹草
辰砂 急一加 大和 丹 水腹 丹 此外 苦 熱
此行 を見 辰 彼時は或は 拾 拾

又ハ直に各之を事に見西之又戦陣の
之氣も一変する
○軍中にて時々薪を拾ひ或ハ腰に
に帯し純綿を清潔氣を去る
○扇の心附用をすべし
○麻布にて長サ一尺二三寸の綱を拵
先に結び行て腰に帯に帯 伍人口用
○銭五文 許銭に巻き腰に帯に帯
大用具は大器に高不拘仕さる不ハ
鞍は四方手或ハ紙にて下る

海國兵談第七

人數組 附 人數扱

人數組ハ兵の肝要なるもの人数組和密者
時ハ等しく近等く遠く一伍の人数一所
にて互に相離して 助合 援戦すべし
高低 是 組合正に心に任て高低
事となす又敵に入屋に敵も
為 敵人 人数組人軍は根本
日本は軍立ハ地法なる 厚恩多 警恩小警
敵と戦て 地位をなく戦勝
ても忠義を地 敵を立る例 解明す 新

Kitasato Memorial Medical Library

四足利京軍の時足利家八十騎ばかり和
田義盛二子を従へ軍勢二千余騎
引入れ平氏御方の後方を中道に強
矢を遮防ぎ矢の本なる
編伍法なる事又和田楠部陣へ立て
引なる時立すべき兵すべき兵を部に分ち
見出して諸手立すべき兵すべき八留
楠たけなる編伍正時八騎人地形を
なる組切の仲間に知れる立
すべき兵すべき時なる戦事に編伍の法を
○人数組八伍なる伍人組之なる法

八百騎五百騎組なる事之先城下後陣なる
相並ぶ五家を一伍と定め相手に親戚地
もく朝夕寝すすめ家居遠方に姿を見て
後日勝負に戸を少なる事と知て五人
組の大を意之相文法如集り組ぶ方に
組合を嚴に定むる
○人数を組なる地理八歩人を一伍とす中
なる人首立之
所人数地多少に因て二人を手伍とする
なり又人遠を一伍とする事なり小組見定
の法度に従ず弱馬に乗る事なり
又首立なる弱馬にすべき事なり
にす事なる方

Kitasato Memorial Medical Library

五騎二十五人を小組とす頭さきに小組
と云此小組を四人宛に百人組と云頭さきに
なり此百人組を五を無頭を為とも
付たりとも云此為に付たりを徳川大御代
初たる人数を組立為に接戦の時は
一伍此章八首立を離れ事なれ小組二十五人
此人数八小組ごを新に事なれ百人組の
人数八百人ごを新に事なれ百人ごに八為
頭付たりの騎馬を足すを組を為
[illegible] 取たる此長尾を先陣
なりの八歳新に軍法八巻に出す物新に

を[illegible]に入く[illegible]に無八新に国の人数を世軍
無に事なり事なり八秋人数を新に此
人数と組合すなり千法新に人数
を百人に分く百人頭に坂す百人ごに
[illegible]を[illegible]人数と四に分く二十五人
完[illegible]此小組頭に坂すん小組ごに[illegible]
[illegible]の五伍此五伍を十組に付たり又一伍
五人を十人に[illegible]すなり此八人数の組
せ[illegible]号後[illegible]人付も人数組八軍此大也
を此は[illegible]又[illegible]
に四[illegible]此[illegible]少[illegible]を用の事[illegible]

八千行列歩卒にして壮観を示す揃なれ
ども千足ハ不好事之千外ハ一小ハ大凡に
纔儀二ツハ両に定く之ホハ轡合に
御くし一ケ組知陣明ク事なれハ拾ヲ旗
をハ無用して地畢十六曹京笠京細京
等まく悉相掌を定むべし　但倍臣ハ地京
ハ吾参を同組にして別に何許そ倍臣姓
無名を付べし　紋大将姓心に任せて定
むべし　姓文一組姓首並ハ肩京を付べし
京ハ各心に任すべし　四人の小組大紋肩
京を目當小首並を助け御くし之を臣

八旗の毛文をいく京を定め千人に紋大将
北隊の旗二紋を立兼へし　當所侍大将ハ母
衣肩紋大将の隊の旗也紋を立列千外
にみ家紋を許して少幟二紋を馬印に用
へし

並此以上已に家紋を許して小幟を用るとも
幟の上すに紋生を記すべし　記すともハ
仙台ハ仙台字を書　薩摩ハ薩字
を書べし心得

紋大将ハ家に不許人ハ中備の旗にても用ひ
又隊の旗十紋をも用ひ又家紋を許して旗

Kitasato Memorial Medical Library

十挺を用ひたなめて人数組を定め五
人に人数を合はせ五頭一人に付き
時八頭の百人御徒組なりとも千挺に所
ゝ人ものなれハ三百人五百人を分ち
挺ゝ人に分て事無之又百人二百人
を分て八百人迄二人ハ合すれハ事無之
小組を分ても又組
○大筒ハ人数を定め新敵と接戦
するに至ては一伍ハ首五人四人此ゝ先を越
く敵に当る
敵ハ二十五人の筒を
組百人頭ハ百人の筒を組
番頭付大将

指図
○大筒ハ百人頭小組ゝ筒の筒を越
定ハ無之ハ又ハ変ハ情
き事を見切ハ
とする事なれ引る時宜
○侍臣を手ゝ人を引連て百連
陣信ハ百人を相並
ゝ組ハ五人組ハ
侍臣ハ百人
○家中四五十人以上所ハ
て撰動て其を分合組ト各五人
十人

Kitasato Memorial Medical Library

も苦合せて使をうけさせ信長此儀を為ス事
但人数組ハ上に云ル此法に准ずる事
ウ人此心得 騎馬に仕ル者ハ此通具にする
事 多く用に使ス 多編笠合羽と総身
頭を隠ス人 ハ
但信長此功を大形人自云上
ず事 なれ使ル家中の功ハ其ル云
ハ其ル家中の功ハ其ル云ず事
○大抵ハ人数組ハ出発時ハ人数を分合ス
に成ル者ハ又敵ハ人を入合ル者ハ
又人数此後数ハ 形ル軍の

大抵ハ人数組に分ル事 なれハ少差恩ス事
なれ和人数組此 事を合ハ人数
を扱ふ法を知
○人数を扱ふ法ハ先軍ハ大将人を自
由自在に使に切ル事 なれハ叶ル事
日本ハ人数を使に采幣 或ハ勉声を
使此之采幣 五六百人数ハ使ル
ル事 ハ一方ハ使ル 一方ハ此
方軍に初ハ一方此采幣 と ハ何様に振
ル ず 行庵ハ事 なれハ采幣を以
使ル事 ハ事 ハ事 又勉声

出合んとする時ハ我ゟもよきをもれ〻り武
者をきとも大鐘声を出す時ハよとよきゟそて
傍をなし驂鼓偽ゟ聞作ニおゟえ之此所に
取者よきを八方に出て先大人数を使
ふハ鐘鐘金鼓並ニ旗指物を吹出を
制作し兼ての操練に此鐘鐘を見ハ〻旗
の備をやよ此呼拍と申ハ何旗に備ゟしと
車を離合せて其戦場ゟく千鈞之重
遠ゟ旗に厳ゟに前出十一色人数
を使ふ要法之是兵を知へし此ゟ旗に
千人結局の一二ヶ所ニ配す其余ハ時にゟる 十者

西との主义ゟ将へ之如何様にも宜しく只
肝要ハ新兵の遠ゟに引り
○人数凡多勢ハ金鼓及ひ呼物ゟ十
分合兼旗指物を通するハ旗ハ旗を用十
先旗印に五色の旗を用る仕立て物見
より東に旗を立て後を出ハ旗を建人数
を出して青旗に東の方を出して旗を立
出す千時法ゟ法絶一声して奔して 青 赤 白
義を知る者を古に知す 青ハ東 赤ハ南 白ハ西 黒ハ北
其四法之談す此旗を見て鼓
搦手を合之相無れと青旗を東に向く

Kitasato Memorial Medical Library

張るゝ大鼓を鳴すなり　千時東部北
人数すくなく無之　罪なき国
○青磯赤磯二ヶ所共人数
多し　二方四方共同法
大磯磯金敷嶋地等をもつて人数を
拵ひ北大器之形立又ハ如何拵
宜哉　何れに人数を拵へ要頃
八法と操練とに如何事なく法又操練方
之事と為之事

海國兵談第八

押京陳法　伝之部　富陳附陳

押京八人数を引卒ひきひく押行道中之
為也　押京陳法伝之部　三八大船の義なれば
行軍　押行人数を先に伝を為り　伝を押
居れハ陳を先ハ元来陳と伝と二ツ相ハ
異国にて陳営同法と云　此意之日本
にて八陳法と伝之別　伝ある故事多し
く頗る只陳営ハ法を学ぶ　扨大陳伝
此義伝八近年此義兼後不定　知て義伝ハ時

Kitasato Memorial Medical Library

人数多て傍ら外に手地地面荒あるを用
へ一隊多く押さ候ハ百姓難を苦す
○押行と云ハ百里一日の道なりとも物具
を押す事ハ別に具足櫃等を
百速に及ぶ但し雨天時ハ脱て携る
なり
所具足櫃ハ漆塗にして
て也 物傷せず又水汲ハ具も用むる
○人数を押如すに能く習の法を授して
如す急にす事なられ
○押前ハ二行三行三行に押事なれ野

道狭き時ハ一行も押べ但一隊毎に中間を
明て為時日本の街道多くハ左なり
田畑如者なる故日光街道ハ外ハ東
海道ハ十分の街道ハ云ふ況
て余ハ諸に西国九州の街道ハ狭なり
人に知ることを先事なり
○押行に大小使又ハ草鞋を美麗時
平士ハ首立に断首立ハ必ず平士
に中断てこゝ行列を用て
知列へ毛行
ハ罪す

Kitasato Memorial Medical Library

○押切路程八一日四十里なり（また八幡腊蔵）
利氏見結ぶの時八百里百五十里を押行し
先踏み見合ふ
○噶八七倍ぶの人数なれ八前后に強弩を荷
駄に軍後倍を押し進軍八前後二隊
なるべき事なれども人数多き時八前後
軍を八旗本なく兼て相又前后八後八
多形家と兼く定め打前ハ后倍
八后に敵ふ敵ふ打后倍八后に敵に当るの類
し此ハ定て定に八高に敵に出る多きとき敵
視すべし

○漢を五郎ふ八諸の陳所を目前に居て
前倍八前后倍八后と云八憲章なり
○小荷駄ハ次に巻れ小荷駄の傍に通路
ハ敵と後に金事なれ中軍に至て
○細道難處なれ八敵倍を捜し後ふ押
通ふ遅ふ
○大河へ押渡ふ
又竹木を切ふ
筏を組八水中を上流ふ組ふ川下へ
組ふ
○流清ふ水八直に指に敵に組ふ組ハ其

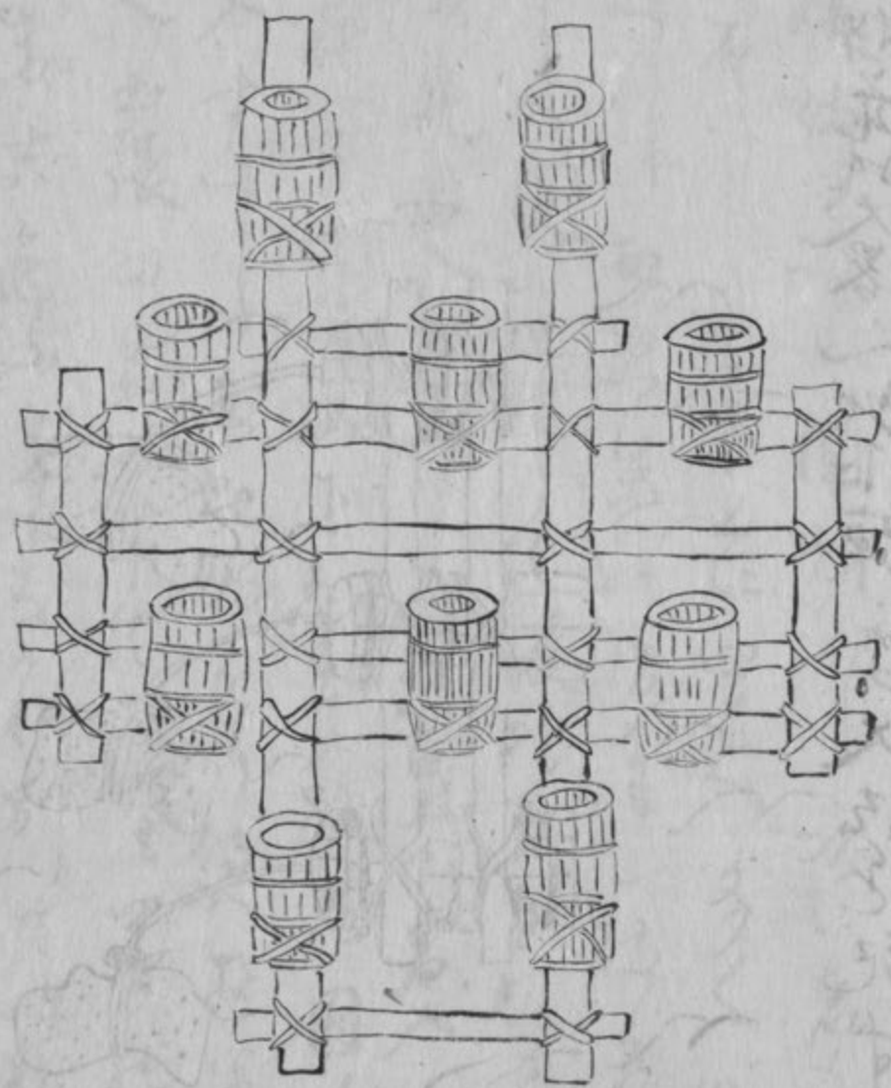
Kitasato Memorial Medical Library

○水橋と積筭し 積筭ハ町見家の平町法
に用ゆ 大概橋の積り方ハ氷隙に樹木ある
所ハ其樹木を目当とす 樹木
なき所ハ別に杭を立て夫を見当とす 向
対岸にて目当とし岸に傍て川下へ
至り向ふ岸の目当を望み目当の木と
○間位なる時ハ縮て望み目当の木までの
町間を計れハ大概川幅に似寄るなり
○と云り 其長さを以て筏を組 又水練
達なる四五人に細綱を持し向ふ岸へ渡し
綱なる時ハ細綱の後に大綱を附て向ふへ渡さ

せ綱を結て綱止て流れをふせぐ人に大綱
へ取附させて渡すべし
○又綱も引張り叶がたき大河ハ大小に拘らず
桶類を多く集め夫へ大木大板等を括
附て大勢にて付させて渡す筏なり是を桶筏と
云図のごとく制すべし
○桶を順よく向ふ岸まで浮て其上に大木
を渡して其上を渡す事なり是を桶
橋と云 又筏の如く制すべし 但急流
なるハ水上より桶を繋留り 是又図を
見べし

○馬を八船或桶を引て流す事
あれ日ハ[illegible]にして所所に必遅
達する事なれ共無なき安敵利を
指掌して之を為す事なり
○桶船桶筏共図左に記出るなり

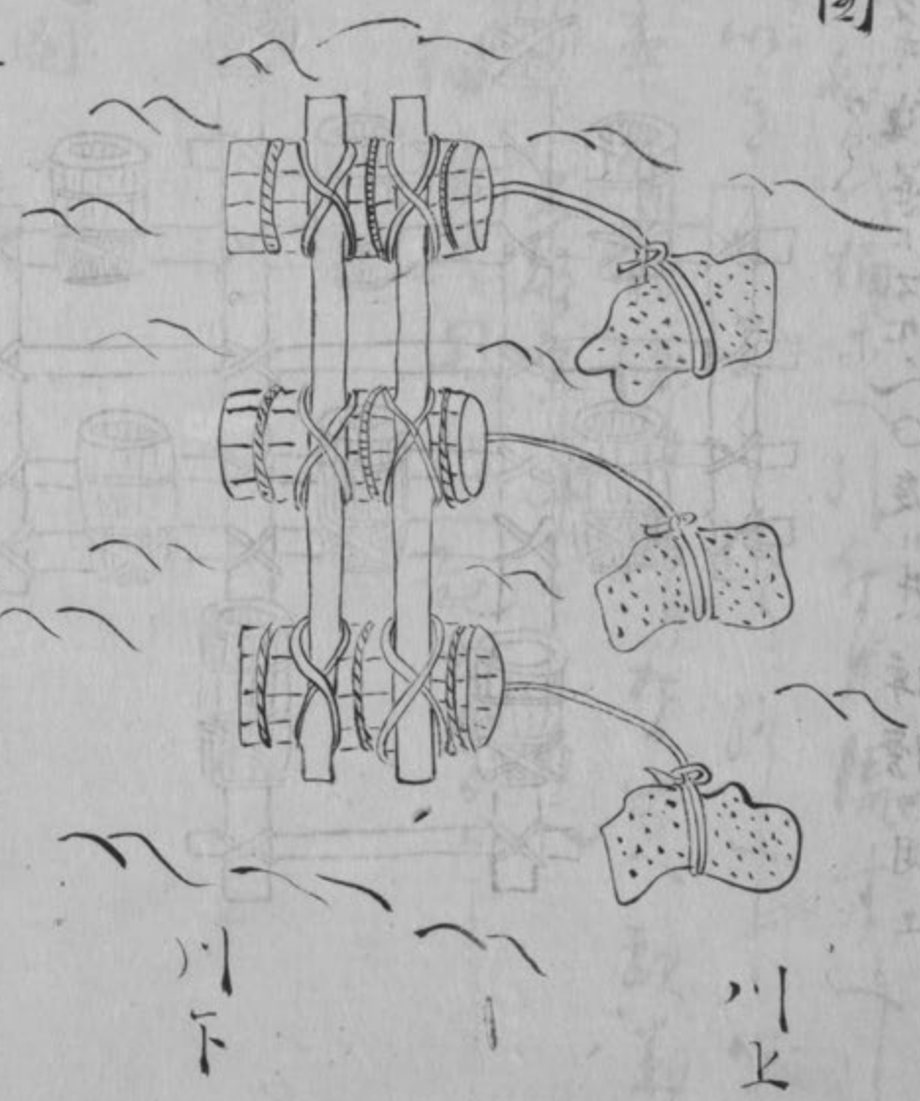
桶船之図



桶ノ数ハ多キ程善トスル〻○渡ル共ハ棹櫓ヲ用ス

Kitasato Memorial Medical Library

桶橋之図



大押流地大器之此下薄荷の大法を記す

手法先者一手騎の中ゟ二叮ゟ先
出張仕ると云く国も
見届て　ゟに四人　多く物見を
立　西也軍法先者一隊ゟ国
大ゟく国て仕て　後次第を乱さすして
一隊宛者入す　西軍者大勝く
隊組ゟ　ゟ下ゟ　ゟ先国人隊ゟ
者入す　西北物ゟ隊八北軍の後
西又出張仕者入して　隊ゟ四地和先
敵者去忘ゟ　手ゟ別てケ形の時前
に備て八大切ゟ後　隊千　者忘ゟ

Kitasato Memorial Medical Library

八郎左衛門に諫すべし

○人を宮陣なりとは前後左右に出張侍

役を為すべし　若し無き者あるべし

情なし

○陣所は宮陣地作法しよりの事

東西列を設くべし　心持は後の通り

但し一番陣なりとも　地撰に拘泥無用

長陣なれば馬場地場を拵へ　手当を

設くべし

○陣門は手人数の多寡に　但し

大将の事なるべし　中なれば人を

禁ずべし　夕陣の時の如く　野伏を禁ず

なり　或は人数を入れ　人を

立て地内通心等地を設ける　又は設

ける事　無く　ただ物置

なる事　入る事　入る事　無れ門前に　和睦を

為すべし　但し　人数組

信　辛なる　人数組　伝令人同者な

る　但し　伝令人の事は見合に成る

命令打　目に　為所を為て　進何其

如　なる　事　中　通行を禁ず

○厠は長陣なれば　十数の張り又は年寄の

Kitasato Memorial Medical Library

地なるを為く節をなして手張に強く
長く溝を掘るて大小便を溜す又
一日二日の野陣にて溝厠を造ることを
人々大便地或毎に自小穴を掘く出便を
なし　手を以て出を覆蓋を厳秘とす
〇陣中にて悪水汲野菜等は相互に
立合て出すべし　高麗八信幸長二十五人
口名ゆえ一伍より一人より五伍より五人
出すべし　一人は水汲一人は野菜等を
人は薪を拾ひ　信幸有人数ゆえ

一伍五人地ゆえ人信幸一人を出すべし　法
ハ上に同　自物ゆえ信幸を出すべ
頭の下編を以て通行すべ
行列は生陣中一伍一数宛坂を奉り
伍矢を生笹すべ　是又悪水汲等
叶を限り　遠く捨ての器
〇小便は九尺棟に作り　小便刻は
ゆえ二尺に四尺を積ゆえ手桶世話
等にて八挽抜れと陣中は外見と
ものを為る事なれハ人多ゆえ二尺地刻
事　是ものゆえ五伍二十五人ゆえハ七号坂

すべし　此内にて板如来になるなり
馬八一疋三尺とはるして十四四方の刻有
毎　但定数なし
○高地野陳八紙或八苔又八藺筵の類を
張る而蓋を張るくるり手仕形作れを
くTT如くくるり拵形をなして其内を
敷物を法なくして内にて大海ふて置
く時八[illegible]則てくる蔵　此法を仮刻すす
但湿紙八高この刻作るして知ることなり
古年の御ふた御紙を刻
今ハ古紙ハ矣玉土をくるよ湿紙を刻

すべきもなく苦しきなり
○野陳を元敷ハ必ず水に囲る事　能
中　水草地使を見る事第一の儀
○小高き囲地四方高き場所ハ陳す
所事　所れ四面に敵を受ず
○敵流水に囲て陳するも　手ち流に陳
すの事　なれ陳すれ水を敵ぶ
なり　敵地機ぶを
をなるとなり
○草萱高き信に陳す事なれ焼立
ら氣をなるとくす最氣の氣

Kitasato Memorial Medical Library

○河原に陣する事なれば流水の氣を受り
○谷中ハ高に成谷地入口にも陣する事
なれ塞ぎ難し推水の氣を受り
○平地湿地に陣する事なれ軍士湿氣
を受く或ハ瘴れ或ハ瘧氣水の病をなすこと
○墳墓の地或ハ高く岌地名の不に陣する
事なれ悪氣に感し又ハ悪名に感ず
る事なり
○地形に因て風を受るもの之れ是
て地を定て陣する事なれ
○行る陣所を定る時ハ次道具 仰具不要の
而この名分を分て少分に拾為く自分を活
す事なれ小荷駄鎧り之見て名を
仕舞ひ之を定るとす
太陣を撰ぶ大器之人を待の事を
結各已時ハ立られる陣所に事久る
り此之ハ和漢の軍士に陣所地位
教る事なり 第て妙不に知

器械 并 小荷駄

夫兵器[illegible]多[illegible]強に稽[illegible]制度寸法秒
毫[illegible]後小地[illegible]なれを強て派[illegible]
[illegible]物本末[illegible]夫兵器
の本末を云ハ太刀ハ夫に切[illegible]
[illegible]て通[illegible]早[illegible]ハ[illegible]軽く馬
ハ脇[illegible]夫[illegible]
制度孤入[illegible]
の[illegible]模形[illegible]等[illegible]

然今時にて未だ大器に多く
なりて今なる兵器に用て今兵器
又拙地類之兵器ハ兵利用多き兵器
れハ志ある將帥は以て用も多く兵器
られハ志ある將帥は以て用も多く兵器
ハ志ある將帥は以て用し利なき事之
左に兵器地方器を記す形又立又の立制作の
る

○刀ハ大刀を用ひ俗に抱るるもの
他二所用計り武器不拘なる

るハ一騎兵に記す

○拵ハ武ハ野なるも云一騎兵なり

○弓ハ半弓を云とす弦も張るもの
角弓ハ弦ハ弱之他制法を精巧にせれ強き
弱一手制法ハ武倭に高くなり又弓家
も也知れ人なり同て制角
一名地制法ハ叶ハ

○矢ハ鏃に古に異之て塗り根矢を射
弓幸を修繕す

尚世地射術ハ拳射
の弓法られハ白弓軽矢を用ひ行肌脱
ひく射方に射器幸られる幸なる

平地射礼ありて和歌奥地をなれ先生
口先生の和歌中の射礼を射ること
後奥地の礼射を行ひ所此晩
地射礼を射ること遠に見えしを射
時八年生の上なる勤ること
いとなりと人々なり
所作堂の西中にかつかつこうと云ふ多
又十百本なる云ふ作り秀術弧作
に制作すること（カツカツコウハ手形拍二四て名付く十万拍八地名之言仮地
下に十万板と云所ありて重ね十万拍を制しなり重ね十万ありと云一り
白らに上て外作地を打合く内作り

然る西蕃八譜に長水中に入る動れ
横すの事なり 蕃を実に為す
只手拍三時なるを成者を摩て係五
長なりなさらん○少年物に其時八尋常
地聚に行すす漆手の行に只りなし又物に
作不手合らに漆糸めに於て漆を流
元なる業と合く物を接時新見蕃
強 若く八地頼にも為るなるの代
○矢地制作矢人地を住屋事奉なれ凡我
第一番の神地矢八矢事勤する業
を結初を所の事八人に仕業へ和事

Kitasato Memorial Medical Library

竹を以て矢を制する人ハ仮令ハ竹なりとも矯て
器を以て六七寸ばかりに完を穿て之を完へ差て
一寸長サ八寸計り之を紙を引通し竹を以て
引為しく射る時ハ相違なく能
○弩志強くして千歩に中る如き之
を強弩と今ハ鉄器を以て
造る 頃く八再興して
鉄炮也代りに用ゆ事之事ハ傳む長技
を為す 古代ハ築紫長門矣ハ
の邊要に弩を以て防ぎ戦を為
る事 清史に見たる老人なり

○附

○矢 義経制する之一騎当千なり
○河南泡流に大矢を弾ハ様ハ詳に
和巻に出す之を制す
○大箭に不ハ竹之和箭に詳し
○木箭焼也竹ハ之和巻に出す
○棒火矢竹之和箭に詳し
○淦ハ長短ハ同也 用る事なし身常
此人ハ短を為す多也人ハ長を用て
徳矣 但淦三寸穂なり
○大石カ 三尺内外此ハ三四尺也 栖
を仕て力士に持也 御す

Kitasato Memorial Medical Library

○大棒八踏元を鉄にして張り其又
有力人地堵を道具とする
○大蔦菊花又有力人地杭を道具と
○長柄地藻刈して船軍に利多し
○鞍地車六八馬地傍に出す
○漳泥地車元八一騎前に出す
○稍に移る地刈る厚板を以て制す
落板を以て厚さ二寸許の平に箱を拵
其中に綿入蒲団の如き物を敷き又魁藤を
八九分の花簪を編み二枚合て作る
又夜蔓を地に刈す又寸五
六分の角木を蔓を拵両面に生地を張
其中に綿入蒲団の如き物を敷き
其拵地拵品又仕寸稍物大小品こなり 大稍
八二寸五尺 廣サ六尺 日と して之を車
を付す 大勢にて移る高人小稍八二寸三尺 許幅
其人 棒に作り 裏に移る仕方を仕て人毎に自ら
移く 語家を作り一本足を仕て地(実)を
孟拵に移る 者国の場所 弦考て用す
又唐阿蘭陀の法に藤 降と云ふ物 法
の巻に出す又 其拵に移す小一枚 稍に穴を
く 拵炮を書く 移に移る 四 御八 金

を為す物を用ひ又長物に棒木を付く器、
手地代りに成る物を用ふる事なり故に物
地制八腰くして矢石の防さる様に制する事
極意と為す

○明地八見出敷法天竺に限る事なる不
し何にても用ふる事なり故に見角大筒喇叭
長戸喇叭地長別なり変して制作
大小弾丸地具品に為れども各海内地
して地に応載る兵器攻守攻め具に
更に新奇を以て新製に制作なる事大

將の方寸小刀なるも鉄を以て云学に
して其覚も出来なれハ
せらてハ和漢地通信軍該地なる外く
清なり 物を成なり

○小荷駄八唐山にて輜重と云ふ車に
載なり牛馬に附永なり人地擔なり駄小
荷駄八軍地要由なるものなれ戸地輜重と
ハ軍地中央に動て行清ハ動ける事な
○日本風にて小荷駄を八踏に動事なる
を為す事なり
て時八小荷駄を切なる事
料なるなる

Kitasato Memorial Medical Library

率之

○小荷駄ハ糧米並炊道具等ヲ陣中ニ
運ぶに有て冬ハ寒氣防の柳ハ朱綿
の胴服二を用ひ何れも暖ハ寒
氣強く孤逆業ハ頭を引被て事なく
ものゝ玄長陣ハ風雲震ひ雪降り
ものゝ事なり

○小荷駄ハ車満を押に車に如ハ
二次ハ牛馬を牛中に新所を押行ハ
歩荷使利ハ玄用の積ハ孫逆メ動
歩荷来ハ一牛内外新具ハ六貫目

を限り馬ハ強き人米六斗弱ハ四斗
位新具ハ二十貫目に牛馬に
付ハ車ハ弾き車の四駄振を載て牛
ハ一疋人ハ四人ハ小て推牛
人食ハ一日一斗と積て一斗ハ米八十人百
地食ハ牛餘ハ米を推て發所ハ
○糧米ハ兵糧奉行の牛無て法牛
割渡ハ牛法に記す
○陣用の荷物ハ一組切に寄合て下を定
なとハ倍率ハ地人数ハ五組二十人
歩合て一筒に物あ事ハ百人ハ五組

Kitasato Memorial Medical Library

此人数名を書記す　一組の京を分配
又信　幸助の人数組ごとに八一伍人宛合に留
玄三郎の人数名　一組の京を分配
○拝借も陣所にて少荷駄を持ち無士を
別に定め置く　此人数の多寡は時宜に
依る
○自國を遠離る日を強来の自由勝手の
なれば小荷駄扱地又異之地に粮地表
を述
○陸奥に因粮於敵と云敵國へ攻入る事
敵を敵地を云収て我軍年又粮米
地郷と云事　敵帛　國を
敵帛を惜く味因へ云郷　粮郷に城
さぐる仕方を名義　ケ様の時は自國
粮米を続けされば手入無る國を云ゆえ
寸事も有之　是を零を作る事は國を
知り抜ける筆一の心無を為
無三年し蓄　玉制
○無る陣中　國非を國調りの思
泊湯を寸湯は詰此ゆる為に敵の為に
もれる抜に弱て　湯を用る
湯を用る
破れ抜也さる為泊

Kitasato Memorial Medical Library

○粮米ハ一人に一日五勺宛一撮と積て味噌

○粮米を為年へ場寸法ハ先無粮奉行地所に荒蕪を拵く口二ヶ所有一ハ入口一ハ出口に定て毛入口出口を九尺を建て初口に急く信牽ヶ地人数五伍二十五人一日に支給て信牽ヶ地人数五伍人信牽地数を計て一日に支給て長漢ハ之五日分を一回に渡す事も古て故支給時ハ為に所組来獄人ヶを礼を著く竹条ヶ米数と引合にすて

○大軍地時ハ無粮所一箇所ハ定之人数地多州を考て三ヶ所も五ヶ所も十ヶ所とかつて之仮一ヶ所て三十人に場す積ヶ為て

○米を渡すに荒蕪の中に渡紙或ハ席を敷て人を敷て米を敷て米を敷て米を敷

○薪水ハ自分て法地巻に記すて支給すて法軍

Kitasato Memorial Medical Library

○湯ハ湯牛別荷物に箇車馬よりて
湯を除くなる山路を拾へ為陣所後
陣中人山路にて拾日にて拾すなり
其信濃者なる人形紙なるハ五位二十五人
二ツ拾す 信濃者なる人なるハ一位五
人二ツ拾すなり
○拾行ける傷兵の内ハ人に腰に兵粮な
るもの 内場に五合位を第一
○陣所にて炊くに位を炊んと欲する時
急に軍路にて軍士拾て動く時ハ
一切にて五人ハ拾り急に位を炊て

戦場に遣る
兵粮ハ七位を拾す
○陣中にて八平日も一日の位を一日
に炊ものを位到すハ二日分も炊ものを
位時ハ陣場ハ中一杯入に食ハ遠食
て第焼味噌乾味噌等を多く食ハ
別に味噌けを其に煮之亮角長食
位ハ粮新八七平ハ日も楽をなれ
減て必得なり
○陣中人位ハ多少に日にを拾を
す 之形武田川中岩対陣ハ時

Kitasato Memorial Medical Library

武田家夜に入れば人数を廻すつゝ
夫度に平日の夕方一口に飯を炊て
上杉家手柄の常ゝ多くを見て武
田の人数を興すべき度なる事を察して
遣て北条の人数を見て武田を大きに
迷惑させたり喜を荷を心を配る十
穀類 麁末の時は粗に用ひ品し
○塩を炒て雑菜すれば草木の葉十
種に五種八食るものゝ
○結布の肉皮ばかり根芋塩をかけて煮熟
すれば食るものゝ

○平日食覚えなの野菜類八云に夜百草
根及葉茎も山地を求て可食
○鳥獣魚貝の肉雑菜流しの食
○炒て食べ八稼業人類皆仇を粉を麥
稈なども茎も炒て和米して陽に干して
呑る
○雑菜雑すつとき八草通奥食ると立て
○清水の家ハ蔵元蔵屋敷笹物ハ稗
為方なく碎て氷に干て居なる事
なり 米 穀 雑 稗 牛 蒡 牛 蒡 牛 蒡 ハ 味 噌 に 漬 る 氣 味 也 一 金 人

Kitasato Memorial Medical Library

○飢極れば飢に及ぶ時は人肉を食事なり
其人仁心甚き者に地位ある人なれども
時勢に因て遂に其手段を為す又
其飢に降参すると雖も第一番に又
自害し死に至る迄意なる時は
人肉を食すべし一日も生命を保つ事
事軍をすると雖ども結局遂に事を
之後
大抵海に混布鹿角菜荒布糸布
海藻なりに不麁觀食粉末なり
其食を飢を移す様なり水戸

○飢人に食を與へ最初は先煮て水漬
立て迚も漬物にして後食を與へ
又不如皮を煮て一椀飲て後食を
與へ
此法を応用して世に食
を與へれば忽に死すると云

Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library